

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 自治・協働課

会議の名称	令和8年度第1回会議パートナーシップのまちづくり推進会議		
開催日時	令和8年4月16日（木） 午後7時00分～午後8時55分		
開催場所	茅野市役所 8階大ホール		
出席者	<p>【委員】 高木委員（副会長）、小池委員（副会長）、岩下委員、小林委員、萩尾委員、山崎委員、八幡委員、牛山（俊）委員、丸山委員、伊東委員、池上委員、鷹野原委員、市川委員、戸田委員、牛山（雄）委員</p> <p>【市側】 今井市長（会長）、柿澤副市長、山田教育長、守屋市民環境部長</p> <p>【事務局】 宮下自治・協働課長、宮下市民活動係長、五味公民館係長、飯山地域コミュニティ係長、林市民活動係主査、倉本市民活動係主任、小島宮川地区コミュニティセンター所長兼中央公民館長、北沢豊平地区コミュニティセンター所長、平沢泉野地区コミュニティセンター所長、矢島金沢地区コミュニティセンター所長、五味北山地区コミュニティセンター所長、小林中大塩地区コミュニティセンター所長</p>		
欠席者	熊谷委員、今井委員、北澤（義）委員、北澤（淳）委員、小尾委員、足立委員		
公開・非公開の別	(公開) ・ 非公開	傍聴者の数	5人
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
会長	<p>1 開会 （司会進行 守屋市民環境部長）</p> <p>2 市民憲章唱和 （発声 小林委員）</p> <p>3 委嘱書の交付</p> <p>4 会長挨拶 大変お忙しいところ、お集まりをいただきまして、誠にありがとうございます。ただいま、委嘱書を皆さまにお渡しさせていただきました。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>さて、長年取り組んでまいりました茅野市のパートナーシップのまちづくりであります。社会情勢の変化、特に人口減少下において高齢者が増えていくという状況の中で、従来のやり方がなかなか通用しなくなっているという状況があります。人がたくさんいるという時代につくられた手法ですので、これを同じようにやろうとするとどうしてもいろんなところに弊害が出てきて、うまくいかなかったり、難しい局面が出てきてしまうわけです。そんな背景から、令和5年度の推進会議において、再構築をしようということを確認させていただきました。</p> <p>その後、準備委員会で再構築に向けて議論を重ねていただいた中で、その内容</p>		

	<p>について、委員の皆さんからご意見をいただきたいということです。</p> <p>そうした流れもあり、市内でも様々な議論を進めてきた中で、本年度から組織体制を少し変えました。パートナーシップのまちづくり推進課として市民活動、生涯学習課として公民館活動をやってきましたが、パートナーシップのまちづくり推進課に、中央公民館の活動を組み入れる形にして、一体的に活動を支援していくということで自治・協働課というものを新たに設置しました。簡単に言うと、市民活動と公民館活動の一元化ということです。そのことによって「学びと自治」というものを、市民活動の中にもっともしっかりともう一回注入していこうという考え方です。</p> <p>パートナーシップのまちづくりも時代の変化の中で、最初は福祉や教育など様々な関係で人が集まって、議論を重ねてまちづくりを進めてきたわけですが、だんだん深化する過程で細分化、専門化してきました。大きく分けると福祉・環境・教育という形でやってきて、当時、非常に効果があったのですが、やはり高度化してきて、一般の方々からすると難しい話になってしまったり、遠い話になってしまったりと、問題も生じてきたのも事実だと思います。また、細分化したことによって、人がたくさんいた時代は、運営がきちんとできていたのですが、人が少なくなってきて活動がなかなか難しくなっているという実態もありました。</p> <p>いろんな課題が出てきているということですので、パートナーシップのまちづくりの基本的な考え方はしっかり押さえながらも、新たな、現代にあったやり方をみんなで考えていければと思っています。皆様方から活発なご意見がいただければと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>5 自己紹介</p> <p>6 会議事項</p> <p>本日の会議につきましては、パートナーシップのまちづくり基本条例に基づき、原則公開とさせていただきます。ここからは、会長の進行により会議事項に入らせていただきます。</p>
会長	<p>(1) 副会長の選出</p> <p>会議事項の一つ目ですが、副会長の選出となります。どなたか副会長をやっていただける方がいれば挙手をお願いします。</p> <p>立候補がないようですので、事務局で腹案がありましたらお願いいたします。</p>
事務局	<p>それでは事務局から腹案を申し上げます。副会長に1号委員の高木委員、2号委員の小池委員にお願いしたいと思います。</p>
会長	<p>ただいま事務局より、高木委員、小池委員を副会長にとの提案がありました。このお二方に副会長をお願いするということですのでよろしいでしょうか。</p> <p>(承認)</p> <p>ありがとうございます。全会一致ということで承認をいただきましたので、お</p>

	<p>二方は副会長席にご移動をお願いします。それではお二方からご挨拶をいただきたいと思います。</p>
副会長	<p>ちの地区コミュニティ運営協議会の会長をさせていただいている小池です。平成26年からですので、10年を超えています。この間、コロナもあり、様々な自治の部分で大変な時期だったと思います。1年とか2年とかではなく、4年、5年と子どもたちにも大きな影響を与えていたと思います。</p> <p>長いことやっていけばいいということではありませんが、今までの積み重ねの中で、準備委員会でもいろんなお話をさせていただき、いろんな方から様々なご意見をいただけてまいりました。簡単に再構築という言葉が使われていますが、なかなか大変な作業になるかと思えます。皆さんの様々な意見をしっかりお聞きして、いい方向に持っていければと思います。よろしくお願いします。</p>
副会長	<p>パートナーシップのまちづくりという手法で始まったまちづくりに関わって随分長くなりました。そんな中、今年は豊平地区下菅沢区の区長に選挙で選ばれて、今年は区長職としても地域に関わらせていただいています。</p> <p>今、区政というものが取りざたされていて、これでよいのだろうかということで議論になっていますが、微力ながら区の中で業務改善に励んでいます。何か貢献できることはないかなと探しながら、こうした自分の足元で考えながら、なおかつ、市全体も見ながらの立場になりますので、一生懸命やらせていただきたいと思えます。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>(2) パートナーシップのまちづくりと推進会議について 〈資料2の説明〉パートナーシップのまちづくりのこれまでの経緯、推進会議の概要、役割について</p>
会長	<p>説明は以上になりますが、ご質問等がありますか。</p>
委員	<p>このパートナーシップのまちづくりを市民の方に周知するということはあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>パートナーシップのまちづくり推進大会で、例えば分野別の皆さんの活動を紹介したり、パネルディスカッションを通じてパートナーシップのまちづくりについて理解を深めるような啓発は行ってきています。</p>
委員	<p>市民の方は、何人くらい参加していたのでしょうか。</p>
事務局	<p>手元に資料がなく人数の詳細は分かりません。</p>
委員	<p>私が前に参加したパートナーシップのまちづくり推進大会では、団体の皆さんは出席していたのですが、市民の方が少なかったのかなという記憶があります。</p>
会長	<p>おっしゃる通り、ここ数年は団体の代表の方で構成されて進めてきたと思います。当初の話は、副市長がよく分かっていると思いますので、副市長、補足を</p>

副市長	<p>お願いします。</p> <p>今、事務局から話があったようにパートナーシップのまちづくり推進大会のような形で各分野の発表があったのですが、このパートナーシップのまちづくりというのは、福祉とか環境とか教育っていう生活課題の部分を見つけて、それをどう解決するかという、実践の中でやっていく運動でした。</p> <p>例えば、美サイクルですと、当初は9種類16分別だったわけですが、それぞれの区や自治会の中で、役員さん、それから区や自治会の皆さんで集まって、みんなで実践をしながら、このように分別をしていく、そして環境活動に役立てていこうという、理屈や理論をみんなに周知するというよりは、その活動の中で、自分たちが一緒になってまちづくりをやっていくという行動の中で周知していくところからスタートしている。おそらく、福祉・環境・教育の分野の皆さんは、そういったことを実践の中で承知されているかと思っています。</p>
会長	<p>ちょうど振り返りの話なので、付け加えて申し上げておきますと、このパートナーシップのまちづくり基本条例を作ったときは、私は市議会議員でした。</p> <p>当時は、市民活動の勢いが盛り上がっていた時代で、その時に議会側で議論がされていたのは、このパートナーシップのまちづくりという、条例をつくるにあたって、市民と行政しか出てこないということです。</p> <p>本来は、市民と行政という二極でのパートナーという話ではなく、三極体制であったべきだと。要するに、市民と行政、市民と議会、議会と市民、議会と行政、行政と市民、行政と議会と、こういった三角の関係があるべきではないかというのは、議会側でも議論をしていました。</p> <p>ただし、このことは採用されず、基本的に茅野市のパートナーシップというのは、行政と市民という形に終始してきています。本来であれば、議会がそこにきちんとした形で入るべきだということで、私も当時から議論してきたところです。様々な議論の過程の中で、今の形態がとられていると認識しているところです。</p>
副会長	<p>資料2の「重点課題への取り組み」のところで、重点3課題を設定して、これらの分野で市民を集めた、そこから参加しているが、この時は、もちろん関連する既成の団体からも選ばれて来ていた人もいましたが、普通の人、市民の方も参加されて100人前後だったと思いますが、集まった。特に福祉分野のところは、かなりの人数が参加しスタートして、どんぐりネットワーク茅野は、この福祉21茅野の中で検討された、子育て、子育ての分野に集まった方々が、後に独立して始まったというように経過を理解しています。そういう形で団体ができたのですが、最初は普通の人たちが集まって始めていまして、その後団体化して、その福祉21の代表として参加しています。</p>
会長	<p>最初はあまりかしこまった形でやってなかったのですが、条例を作ったり、いろいろ計画を作ったりする中で、何かカチツとした感じになっていってしまったというのは、正直あったのではないかと思います。</p> <p>その他、ご質問、ご意見はございますか。あとでも構いませんので、気付いたところでご発言いただければと思います。</p>

事務局	<p>(3) 準備委員会委員について 〈資料3の説明〉パートナーシップのまちづくり推進会議準備委員の所掌事務、定数等について</p>
会長	<p>ただいまの説明についてご質問がありましたらお願いいたします。なければ、立候補していただける方はいらっしゃいますか。</p> <p>(副会長2名、小林委員、八幡委員、市川委員が立候補)</p>
事務局	<p>本日欠席されています、4号委員の足立委員も立候補ということでお聞きしています。</p>
会長	<p>もしほかにいらっしゃらなければ、立候補いただいた方々をお願いしたいと思います。拍手で承認をお願いします。</p> <p>(承認)</p> <p>ありがとうございます。それでは、一言ずつ、ご挨拶をお願いします。</p>
委員	<p>前回、委員をやらせていただいた時も準備委員でしたので、乗りかかった船なので、やらせていただければということで務めたいと思います。よろしくお願いします。</p>
委員	<p>よろしくお願いします。私も前年度もいろいろ関わらせていただいていたんですが、今、ここの場で言うことではないかもしれませんが、先ほども男性の方が多いというお話もありました。この中で、やはり女性の意見も少しでも届けていきたいと思っています。今年は1人で頑張りますが、次回は、若い女性の方、そしてしっかりと熟考できる女性の方にも関わっていただけたらと思います。よろしくお願いします。</p>
委員	<p>私も前回の時から、準備委員会の方も関わらせてもらいました。先ほども少し言いましたが、公民館関係も、中央公民館が一緒になったということで、専門員として公民館も関わっているの、こういうところで学んで、もっと茅野市をよくしていけるように、微力ながら尽力できたらと思っています。よろしくお願いします。</p>
副会長	<p>前回に引き続き務めさせていただきたいと思います。ちの地区のコミュニティ運営協議会の会長という立場で出ておりました。多くの準備委員の皆さんは、それぞれ個別の分野別で活躍されている方が多いということで、市全体で進めるこの様々な事業について、地域の現場でそれをどういうふうにとり込んでいくかということ念頭に考えてきたつもりです。区だけでは解決できない部分を地区全体でカバーして成し遂げていくという、地区の活動も見られるようになりました。その成果だと思っています。</p> <p>今後もコミュニティ運営協議会を中心に、自分のその立場をしっかりと自覚しながらこれからも進めていきたいと思っています。</p>

副会長	<p>市全体の様々な活動の中で活躍されている皆さんが大勢いらっしゃいます。生涯学習ではないですが、勉強になることが次から次へと出てきています。今日のこの資料を作る中でも、準備委員会の中で非常に細かい部分についてまで熱い議論をさせていただきました。そんな形でまた続けてやらせていただきたいと思っています。よろしくお願いします。</p> <p>前準備委員会のメンバーとして参加しておりましたが、引続きお願いします。福祉 21 茅野に関わっている中で、最初の福祉 21 茅野の方がやった仕事のひとつが、茅野市の皆さんの生活を少しでも良くするためのマネジメントシステムを立ち上げるという仕事だったと思います。私たちが市民の立場で提案したことが、次々と形になるのを目の当たりにした時期でした。それがある程度出来上がった段階で、次はもっと個別の課題に目が向くようになり、例えば認知症の問題であるとか、今も関わっているのが足の問題、外出支援。外出がしづらい人、それから免許返納した人が自由に外出できるまちにするにはどうしたらいいかということ、福祉 21 茅野の中にワーキンググループができ、検討してきました。</p> <p>その活動の成果が、今ののらぎあの車いす対応ができる車両の導入ということに繋がる。やはりこれも、私たちが取り組んできて望んだことが形になった最近の出来事の一つです。こうした形でパートナーシップが今も息づいているということは、本当にありがたいことですし、これが今後も生きていく、これがまちづくりに生かされているということに、引続き貢献したいですし、それを利用したまちづくりにも具体的に、何かの課題のことで参画していきたいと思っています。そういう背景というか、素地というか、そんなムードというか、文化というかそういうもの醸成に関わるというように考えてやっていきたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。準備委員として、6名の方はどうぞよろしくお願いします。</p> <p>(4) パートナーシップのまちづくりの再構築について 〈資料4の説明〉パートナーシップのまちづくりの再構築について</p>
副会長	<p>これは準備委員会で、1年、2年定期的に集まって、本当に遅くまで議論しました。パートナーシップのまちづくりとはそもそも何なのかということであったり、再構築するとはどういうことなのかということはかなり掘り下げて、高名な大学の先生のお話しも伺ったり、お互いに議論したりして、僕自身はその議論の中で、途中で分からなくなりまして、もう会議にでるのが嫌になった時期が正直ありました。</p> <p>それでも、会議に出て考えて、また持ち帰ってみたいなことを繰り返している中で、先ほど立候補したメンバーと一緒に考えてきたメンバーですが、現時点での到達点がA4一枚にまとまったという形です。</p> <p>これについてご説明をしたいと思いますが、準備委員会のメンバー全員が今、同じ地平に立てているかということ、多少の食い違いがあると思います。今からの説明の中には、僕の見解も多少入りますので、そこは後ほどの議論で修正をして</p>

いただければと思います。

「0 はじめに」に書いてあることは、本当に原理的なところかと思いますが。人々があるエリアと一緒に住めば、当然バラバラに生きていくことはできませんし、人間というのは社会的な動物だとよく言いますが、社会を形成して、基本的にはみんなが協力し合って、自分たちの暮らしを作り上げていくということはずっとやってきたわけです。

それを言葉にすればあらゆる主体が協働し、それぞれの暮らしの豊かさ、それを創出する、そしてそれを持続するというこのために、みんなが考えて、どうするといったのを選び取って、そしてやったことについて見直しをかけて、また必要な手を施していくことを積み重ねていく。それがまちづくりということだろうと。

もっと昔であれば、村づくりといったのかもしれないし、原始時代であればもう少し違う言い方になるのかもしれませんが、現代で言えばまちづくりになるだろうと。

その結果出てくるのは制度や施設であったりするわけですし、その制度や施設が、また営みをささえるために機能するという循環が起きてきましたが、冒頭の会長の挨拶にあったように人口減少社会が進行して、いろいろ変わってくるなかで、これまで整えてきたものがうまく機能しなかったり、持続できなかったりということがもし起きているとしたら、やはりこれを調整していかないといけないだろうという局面に来ているという認識が書いてあります。

その認識のもとに、改めて茅野市のパートナーシップのまちづくりとは何なのかを考えますと、資料に書いてある「茅野市のパートナーシップのまちづくりは、市役所が市民をパートナーとして協働を行うことをその理念」とすると。もちろんこの協働というのは、地域の中に重層的にあるのだと思います。家庭だったり、隣組だったり、区であったり、地区であったり。市全体で考えたときに、市役所が「協働していこう、市民の皆さん」ということで手を組むという、そういうことを理念としてその協働を通じて、市民の立場で、市役所職員の立場で多様な視点を出し合って、ここまで実践してきたという歴史になっています。

具体的に言うと、この両者が実際に協働する場面がどんな場面かという、まちづくりの方向性とか、政策の立案、まちづくりの方向性とはこういうまちにしていこう、そのためにはどういう政策が必要かということ立案していくことについては、その方向性や政策を立案して決定していく、意思決定パートナーとして、市役所と市民がパートナーとして作り上げる。方向性を見定め、政策を作り上げるところのパートナーとして、このパートナーシップのまちづくりという理念が生きてきた、あるいはパートナーシップのまちづくりという手法が行われてきた。

策定された政策を、今度は実際に行っていくって何らかの形にするわけですが、執行するフェーズにおいて今度はともに協働して、一緒に作り上げた政策がうまく成就して機能するように協働する。分けようと思えばこういうフェーズに分けられると思うのですが、これらの一連の過程、それを裏打ちする理念、これを茅野市のパートナーシップのまちづくりと言ってきたのではないかとこのころに落ち着いたわけです。

このパートナーシップのまちづくりという、手法といえば手法なのですが、この手法を裏打ちする理念は、先ほど紹介されました対等の立場であるとか、市民が主体性を持つということを理念としているわけです。

市役所がパートナーとして一緒にタッグを組む対象者は誰かということ、個人や、グループや団体、あるいは事業者というのもあるでしょう。それから、区や地区レベルの、地縁の住民です。そういった方々がパートナーシップの理念に沿って、主体性を持って、市と、市役所の皆さんと一緒にまちづくりを行っていく。このスタイルをまちづくりの手法として我々はやっていくんだということを、市は明確に宣言しました。

そのプロセスにおいては、情報を開示し、市民の声に耳を傾け、行政の立場、あるいは市役所の立場ではとらえきれない課題やニーズやアイデアを拾い上げることをして、いろんなものがつくられてきたという、振り返りになります。

茅野市のパートナーシップのまちづくりとは、市役所が市民をパートナーとして、まちづくりの方向性の決定や政策立案の段階から、その執行プロセスも含めて協働してきた、ということです。その結果としていろんなものを作り上げてきた。その過程では、私たちの側、市民あるいはある団体の所属者として、その視点からいろいろ言わせていただくことがまちづくりに活かされる。それを拾い上げて形にしていく作業に参画できた、そういうプロセスだったと思います。

それを再構築するとはどういうことかということが、2に書いてあります。しかし、現状においては、以上の理念と過程からの逸脱が起きている認識をまず述べています。その逸脱の内容は、情報の不均衡と不十分な市民参画、それからプロセス評価の不在、ということです。これを本来の姿に修正していくということは、この逸脱から元に戻すということです。それを整理するとこの3つになるのではないかと議論になりました。それを再構築の柱にしよう。

一つ目は、情報開示、情報共有をしっかりとやっていただこうと、先ほどのパートナーシップのまちづくりに関する説明における、市の責務です。資料2のパートナーシップのまちづくりの基本原則の三つ目に情報の共有があります。「必要な情報をお互いに共有する」ということですから、市民の側も情報を提供しますし、市の側からも、市が持っている私たちがあまりよく知らない情報を共有する。そのためには、市の責務として、その下の表にある情報を公開、提供する、積極的な公開を行って、情報提供を行う。これがなければ、市民がまちづくりの方向性や政策の立案の中で、きちんと議論して、協働して意見を出すことができません。このことが、今足りないのではないかと。

実際、市のいくつかの協議会に参加してみて、「何か情報が足りないな」ということが最近よく感じるものの一つでした。情報の不均衡は、協働の質を毀損するというように書かれています。

市役所は、その有する情報を開示してほしいし、市民は自分たちが持っている情報を、声を上げ発信するということが求められるだろうと、双方がそうだと、ということです。

二つ目は、政策立案の段階からの協働参画。これはあえて1のところ、フェーズに分けていますが、政策立案の段階から一緒にやるというのが、本来の姿であろう、と。

協議会に呼ばれて行くと、出来上がったものが提出されて、場合によっては、その場で読んで意見を出せ、というやり方が最近、時々ありましたので、今、目の前に出ているものを作るところから、僕たちは参画させていただきたい、参画したいんだ、そのためには情報もいただかないと、参画できないし、意見も出せない。

個人的な意見になりますが、政策には、大きなものから小さなものまであつ

て、例えば、最初に福祉 21 茅野が議論したのは、どういう福祉のまちにしたいんだということ、みんなが平等でという、これは大きな方針ではありますが、この大きな方針を打ち出すということも協働で行っていくべきでしょうし、それに基づいていろいろな施策も協働で行っていくべきだと思います。

小さなこと、例えば、先ほど挨拶の中でも触れましたが、区政をどうするのかという、本当に個別具体的な課題についても、やはり政策立案していく段階では、いろんな人が主体的に参画して、意見を述べていく、というようにできるといい。それから、これも先ほど話に出しましたが、市の公共交通をどうするんだという個別具体的な課題についても、私たち市民が参画して、市民の立場で意見を言う、という協働で立案をしていくことが必要かなと思います。

そして、三つ目に必要なのが、そのプロセスを評価する。ちゃんと情報は開示されていたか、それに基づいて市民も自分たちの立場で物が言えたか、あるいは市民の側も自分たちが持っている情報をみんなに提供して共有できたかといった、そういうプロセスがあったかということ、政策立案の段階から本当に協働があったのかということ、あとからきちんと評価して、それがまた見直しにつながっていくことになると思います。

この三つを意識して、パートナーシップのまちづくりを行っていくということが、再構築になるのではないかと思います。この三つを意識するだけでもだいぶ変わると思います。

ここからは私の意見になりますが、パートナーシップのまちづくりの再構築というのは、二つ大きな意味があって、一つは、パートナーシップのまちづくりという手法と理念が外れてきているから、それをもう一度、元の手法、理念に戻そうという再構築。もう一つは、今までのパートナーシップのまちづくりで作られてきたいろんな仕組みとか制度とか、それからハードですね、箱物もできました。そういったものを新しい時代、少子高齢化の時代に合わせて、そして人口が減る中でそれらをどのようにして支え、運営、運用していくかということ、パートナーシップのまちづくりの手法で再構築していく、という二つの意味があると思います。

パートナーシップのまちづくりの手法と理念そのものを原点に還すという再構築と、パートナーシップのまちづくりの手法で作られてきたものを、パートナーシップのまちづくりの手法で、再構築するということです。

これを再構築の指針とすることを、準備委員会としては提案したいと思います。

ただ、冒頭に言いましたように、ようやくこの段階まで来た、という感じですが、まだまだこれを本当に深めていく。準備委員の中でも、多少のニュアンスの違いや意見の違いもありますし、今日のこの推進会議のメンバーにしてみれば、もっともっと意見があると思いますので、この案をよく揉んでいただいて、うまくまとまっていけばと思います。

会長

それでは、皆さん方からご意見をいただきたいと思います。

委員

確かに、2で書かれていることは、まさに行政のマネジメントだと思っていました。なるほどなと思いました。しかし、やはり懸念は、市役所に対してはおそらくこれで浸透できるだろうと思うのですが、団体の代表者はよいのですが、市民、一個人のレベルまで、市の、行政の計画に参画できるんだ、という意識付

けをどうするかというところは大きな課題だと思っています。

私もたまたまこういう役職を担わせていただいているものですから参画しているのですが、かなり敷居が高いのではないかと思います。

意識のある方、市川委員のように手を挙げて参加してくださる方もいらっしゃるのですが、なかなかそういう方だけではないということで、市民に対してどうアプローチするかというのは議論が必要だと思います。同時に、市民の代表という点で、市長もおっしゃっていましたが、議会の位置づけをどうするのかということも気になるところです。

市民が自分事としていろんなことを発言し、いろんな政策に参加できるということは非常によいことだと思います。その実行段階において、個人レベル、もしくは議会との関係を含めてどうするかということは課題として感じました。

副会長

市民一人ひとりに、茅野市はパートナーシップのまちづくりでやっていくんだ、やっているんだということを知っていただいて、浸透させるのはなかなか大変だと思います。例えば、広報ちのにそういうことを書いても、読まずにどこかへ行ってしまうということもよくあることだと思うので、一般に普通の生活をしている方が、市役所と協働してまちづくりをやっているということにどれくらい興味があるかという、そんなにあるという話ではないと思っています。そういう方たちを巻き込む、巻き込み方がきつとあると思っていて、それはおそろく個別具体的な課題だと思います。

要するに、自分事とするかどうか。自分のこととしか思えないようなことに、「このことについて、パートナーシップのまちづくりの考え方で、政策立案したいのだけど、市民の皆さんから手を挙げてもらえませんか」と投げかけをされれば、ひょっとしたら、例えば、最近の小学校を減らすという話が出たときにかなりの方が議論に参加されていたようになる。それは、普段あまりそんなことを考えてない方たちが、自分事になったために、立ち上がる、意見を言わせてもらうということで、その意見を言わせてもらう場があって、それが尊重されて、政策立案につながっていく。これはある意味、自治の学習だと思います。

そういう体験が、逆に今度は市民の主体性を育てるということになるかもしれない、そうだといいなと思います。

僕が今、興味があるのは、区政です。前の区長さん、自治会長さんが、自分もやっていたから、何か言いたいということがあるのではないかと思いますので、場合によってはそれこそ 100 人くらい集まるのではないかと。どういう課題を取り上げて、どういうふうにその方たちに語ってもらうのかというやり方をしっかりすれば、パートナーシップのまちづくりという言葉は知らなくても、おのずと、学べるかもしれないと思います。

委員

議会の話がありましたが、立案は決めていく話ではなく、決めるのが議会になるのかな、と思っています。どれだけよい原案が作れるか、という部分でどれだけ多くの市民を巻き込んで原案をつくれたか。それはあくまでも集まった原案なので、議会承認を経ないと市の決定にはならないということ。そこに関わるということは、関わった市民にとっては非常に関心が高まるので、実施段階での協力も変わるだろうと。

先ほどの浸透というのは、このパートナーシップの手法のレビューということ、茅野市の施策だけではなく、区会とか、いろんな団体が同じように決めて

	<p>いく時に、どれだけ構成メンバーと関わったのか、きちんと関わったやり方をしたかどうか、情報共有をしないとか、というようなことを同じようにやると、だんだんみんなが肥えてくるのではないかと、という超楽観的なモデル。それを先駆的にパートナーシップのまちづくり推進会議がやっていく。</p> <p>だから、推進会議、あるいは推進大会で、茅野市のいろんなこと、あるいは一つとってもいいが、パートナーシップのまちづくりとしてどうであったか、ということをも市民が評価してみるような活動を多くやると、何か関心のある市民が来たりするのではないかと。</p> <p>それは、決まったことにケチをつけるのではなくて、もっと良い決め方があったねという反省が出たら、次のヒントになるのではないかと、どうやったらいいのかということのアイデアが出れば、次にうまくやれる人が増えてくるのではないかと。そういうふうに時間はかかりそうであるが、意外と太い進化を遂げるのではないかと。</p> <p>そんなイメージで考えたのが、情報を共有できただろうか、原案づくりにどれだけ関わらせることができたか、それが本当にできたか、それを回すことがPDCAかなあ、という話です。</p>
委員	<p>私も長年、こういった会議に出させていただいて、今日、詳細を説明させていただいて、その通りだと思うのですが、この内容を全部、市民にうまく説明するとなかなか難しい。今までがどうであって、何をやってきて、何が変わって、今後こうするんだと、絵にかいたような形で、なるほどな、と分かるようにしないと根幹のところを間違えてしまう。枝葉を凝縮したような形でびっしりあるので、これを分かりやすく再整理していただきたい。</p> <p>今までこうやってこんな成果があった、こんなことは難しかった、こんな環境が変わったので、今後こうすることによって、ここのところを期待したい、皆さんに参画してもらいたい、というような形で整理しないかな、と思います。</p>
委員	<p>高木副会長からの説明、非常にわかりやすかったです。ただ、残っていないんです。先ほどの話にもあったように、内容とは関係ないのですが、来て、これが決まっているからこれで、というのに近いかなと思いました。この資料を早くもらっておけば、違う意見が出たかもしれません。</p> <p>ただ、やはり元に戻すところは戻す、変えなければいけないことは変えるということは、非常に大事なことだと思いますので、それに対しては、大きいこと、細かいこと関係なく、気が付いたことは一つひとつやっていくことが、大事なのではないかと感じました。</p>
会長	<p>そうした要望も含めて言っていただいて結構です。事務局も、出来るだけ皆さんのやりやすい形で進めていければいいと思います。</p>
委員	<p>お話しにあったように、パートナーシップのまちづくりというのを、この国際クラブに入って、一緒に協働するんだよって話を聞くまで、何のことかわかってなかった市民の一人です。我々の団体自体が代替わりをして、私たち若手がこの交流事業をやって、去年が初めてだったのですが、予算の段階からとか、市の国際交流に関する意見を聞くようになって、ようやく私も、もうちょっと一人の市</p>

民として、自分の意見を言っていていいんだ、言ったら聞いてくれるかもしれないんだっていう気持ちになりました。

私も、先ほどちょっとお話にあった学校統合という話も、地区のお母さんたちが本当に真剣に考えて、夜や休みの日も集まって、どうしたらいいんだろうって意見交換を本当に活発にされています。そういう方々が地区にもたくさんいらっしゃるということは、市民もいろんな考え方を持っているお母さんたちがいっぱいいて、そういう声をどうやってあげていったらいいのだろうという人は多いのではないかと思います。どういうふうに意見を汲んでいくということは、まだ大きな話で考えられないというのが、率直なところです。

私のような人がもっと増えていけばいいなという視点から、この会議の中で勉強させていただいて、提案できればいいなと思いました。

委員

まちづくりの基本は、区や地域、地区にあるんだというのが、パートナーシップの最初の考え方だったかなと思います。

最初に矢崎市長にいろいろお話を伺ったときに、「市は金をくれるで、おめたちは汗をかけ」と、言われたことはすごく覚えているのですが、行政と地区、あるいは区というものの考え方はまさにそこだったかな、と。昔は行政が支援してくれて、側溝を直すといって、区の人たちが多く集まってやっていましたが、今はなかなかそのようには出来ないの、当然業者に頼みつつやっていかなければいけないというように変わってきました。

だから、人も、地区、地域のためだったら何でもやってやろうか、というところから、今はどうも若い人たちがなかなかそろってくれないというところがあって、高齢者になった者が地域のことを進めていかなければいけないということもあります。こういう考え方はすごくよいことなのですが、私とすれば、これから若い人たちをどうやってこういうものに引き込んでいくか、育てていくかということが、大事になってくると常日頃、感じています。そのあたりを入れ込んでもらえればと思います。

委員

まず、こちらの再構築指針（案）を拝見して、またご説明を加えていただいても納得がいきました。よく構造化されていて見やすかったと思います。最後に、二つ手法について、どのように再構築するかという対照的な二つをおっしゃっていたと思いますので、そこも付け加えていただければと思います。

私は、情報化ということで来ていますので、特に1の情報開示とか情報共有を進めるということは、実は結構前から気になることでした。一番簡単なところで言うと、市のホームページで、ホームページの業者さんが変わるときに立ち会ったことが何度かあるのですが、そのたびに構造が変わってしまって、中身を手動で入れ替えていると、失われる情報もあるし、関連性も変わってしまう。そうすると、例えば、今日の資料にパートナーシップのまちづくりの歴史を年表のように書いてあったと思うのですが、ああいった検証が非常にしづらくなる。つまり、情報のアーカイブ化というのが行政の方できちんと一般の方に見える形でなされていないというのは、市民の側が自由に検証したり、どういうふうにしていったらいいかなど過去に学ぶということが自由にしにくい環境にあると思っています。

先ほどから皆さんがおっしゃっているような、どんなふうに市民を巻き込んでいくかと言ったときに、そういう方面から興味を持つ方って結構いらっしゃる

	<p>ると思うんです。</p> <p>例えば、学校の再編の時の話で私が思い出したのは、私が子どもの頃に、給食センター問題というのがあって、今、自校給食が非常に質が高いということで話題になっていますが、セントラルキッチンというか給食センターから給食をやるという話がありました。</p> <p>どういうことがあったのかなと思って、図書館に行って、図書館の人がすごく親切で、新聞のアーカイブとかいろいろ、ここにもあそこにもありましたよって教えてもらいながら、調べるのを趣味でやっていました。</p> <p>そういうことをやる時に、行政には行政のまとまった時系列があると思うし、議会の議事録もそうだと思いますが、そういったものが、こういう時代ですので、手軽に検索しやすかったり、まとめやすかったりすると、市民の方がいろんな形で関わり方に貢献できるのではないかと考えると、情報開示、情報共有の部分は、もう少し具体的にできていくのではないかと長年思っていました。こここのところから進めていければいいのかな、と思いました。</p>
委員	<p>情報ということで、市がやったことなのか、協働の結果としてそれが実行されているのか、ということをはっきりと分かりやすく示していただければありがたいと思っています。広報ちのであったり、市のホームページであったり、パートナーシップの結果、結果とは言いませんが、働きかけがあったのかどうかということに関して、まったく情報がないので、そのあたりも情報発信する時に、入れていただければなと思っています。</p>
委員	<p>市長がまちづくり懇談会で来た時の話を聞くと、生まれた子どもの人数のこととか、亡くなった人の数だとかを話していただいたのですが、一生懸命学校のことで盛り上がりやっている人たちがいらっしゃるのですが、市長の話を聞くとやはりだめなのではないかと思うこともあります。</p>
会長	<p>なかなか景気のいい情報だけを提供できない時代になり、これも情報としてお伝えしているというところですよ。お伝えしたくないものもあえてお伝えすることが大事ななと思ってやっていますので、ご理解をいただければと思います。</p>
委員	<p>市民は声を上げて発信するというを書いてありますが、一人一人がその意識まで持ち上げて発信するというのは、よほどの意識がないとできないのではないかなと思います。福祉の関係ですとか、意見を上げて取り組んでいただいているということ聞いていますが、せっかくある区の行政の関係、区長のところは一番生活に近いので、そこからもう少し意見をうまく拾えるのではないかと感じています。</p> <p>関係団体の皆さんは、ご苦労をされているため、意見は出せると思うのですが、区の関係、あと、やはり議会の方も、どう動いていただいているのかは一市民としてはよく見えないところもありますので、課題の拾い上げの部分の話になりますが、拾っていただける体制がもう少しできるといいというのが、私の意見です。</p>
委員	<p>私は、NPO 法人サポートCという活動のほかに、子ども食堂をやっているの</p>

すが、その中でいろいろと情報を共有する中で、茅野市の中には、子どものことを大切に考える団体がすごく多いです。

私は、やはりまちづくりの中では、子どもをキーワードにして、自分たちの将来の投資のために、子どもに何ができるのか、というところを考えていけたらと強く感じています。

ということで、パートナーシップのまちづくりの中でも、ぜひ自分たちの未来をどんな形でまちに反映させていくのかというのを、気負いなくぎっくばらんにどんどんお話をを出していただいて、よりよいまちをつくるための知恵をみんなを出し合っていけたらと思います。

委員

自分も準備委員会で、この資料をつくるときに関わらせていただいて、皆さんのお話を聞かせていただく中で、一つ思い出したことがあります。私がどんぐりネットワーク茅野に関わるようになったのは、茅野市の PTA 連合会会長をやったからなのですが、どんぐりネットワーク茅野をそのあと引き続きやらせてもらえませんかということで、関わってきました。PTA 役員が終わってから、PTA はこんな組織なのかなと感じたこともあるのですが、やっているときから感じているのが、情報を届けたい人ほど、届けたい情報が届いていないのではないかと感じています。例えば、何か会議があったときに、PTA の方みんなに声をかけているが、一番参加してもらいたい人は出てきてくれないという問題があって、どうしたらそういう人に声が届くのだろうと感じていました。

この再構築（案）の中で書かれている、市民が声を上げるというのも、その逆のパターンで、おそらく声を上げてもらいたい人の声ほど聞こえにくいのではないかとことをすごく感じています。どうすればよいかという答えはわからないのですが、それこそ市川委員や高木委員がおっしゃっていたように、今回はこんな形で会議を進めて、とやったあとに、本当に聞きたい人の声をちゃんと聞けていたのかという検証をし、聞くためには次にどんなことをしてみようか、ということが続けていくしかないのかな、と。

こういったものを作ると、その場で、一発で正解を出そうとするが、別にこれが正解でなくてもいいし、こうやってここにいるメンバーで、これでいいのか、という話もしたいんだろうという内容です。そういった話が、例えば自分であれば、どんぐりネットワーク茅野の中でもできたらいいし、それぞれの皆さんの団体、運営協議会の中でも、本当に聞きたい人の声を聞けているのかという部分を常に意識したいと感じました。

委員

やはりまちづくりというのは、行政だけでできるものではないので、市民を巻き込んだまちづくりというのは大切だと思います。

こういう“団体の市民”ではなく、“個人の市民”の意見が大事な、と思います。市民の方からアイデアをもらって、それを参考にするとか、いろんな手はあると思うので、何かいいアイデアがあったら、それで進めていってほしいと思います。

ありがとうございます。一通りお聞きしたということでよろしいでしょうか。では、それを受けて、副会長、何かありますか。

副会長

珍しくいろんな方から、いろんなお話が聞けてよかったなと思っています。こ

の会議の話しにくさといいます、発言のしにくさというのは、要は、構成員が1号委員は分野別の市民ネットワークの関係者、2号委員は地域コミュニティの関係者というようなことで、それぞれの課題をあらかじめ持っているということにあって、分野別の市民ネットワークの方は、ねらいが絞りやすいということもありますが、地域コミュニティの関係者となると、日常生活の細かい部分を抱えていて、そこにあらわれてくる課題というのは、個別具体的なものですから、そのあたりで、この1号委員と2号委員の間でも、ちょっとした壁があるのかな、とずっと思っていました。

準備委員会の中では、その壁を少しずつ崩しながら、一緒にできる、一緒に目的といいますか、ここで言えば指針を作るときに、どういうふうに両方に共通な形の言葉で言い表せるのかな、というところで苦労した覚えがあります。

私の家には、亡くなりましたが、年寄りがいて、認知症になりました。近所のおばあちゃんも認知症になりました。二人は仲が良く、二、三百メートル離れた家なので、道路を行ったり来たりして、なんで話が続けているのか分からないが、感情でつながって話をしている。あくまで、私の家の年寄りの問題であり、相手方の家庭の問題ではあるのですが、やはり災害の時には、こういう人たちをみんなでどうするのだろう、どういう手伝いができるのだろう、ということを考えざるをえない、特に災害が起こった時にはしみじみ思いました。

私の地区では、七つの区が協働してできることは、助け合いましょうという、活動をつづけているわけですが、年寄りに対してどういうお手伝いができるのだろうかとか考えるのが区であり、みんなで勉強して考えましょうというのが、個別具体的で一つの家庭とか個人の問題として終わるのではなくて、少し広げた隣近所の付き合い方のあり方、村のあり方になってくるのだと思います。

もう一つの例は、区会の関係ですが、私たちはOBで、私たちの区では、いわば区長のOB会があったのですが、それをなくしたいという提案が区会でなされました。

若い人たちは、自分たちのペースというか、リズムで区政を進めたいという思いがあったようですが、非常に猛反対を受けて、これはやはり決まった世代の人たちだけで一つの話をしてしまうと、何か大事なものが抜け落ちてしまうのではないかと実感したこともあります。

このように、地域の問題というのは、個別具体的で、「あの家のあの人が・・・」というような話から始まることだとは思いますが、個人ですべての問題を片づけるわけにはいかないのは当然ですし、特に災害なんかは、そうだと思います。日常の弱者をどういうふうと一緒に生活していけるようにしたらよいのかという問題というのは、やはり個別の家庭の中だけでは解決できないことだと思います。

まさしくそういった情報を共有することで、ともに学んで、ともに、少しずつでも暮らしやすいまちづくりを、地域の人間としてできるのだろうと思っています。

そういうことを一般化させる意味で、この指針を、そんな思いで作ったということです。このやり方でいきましょうということではないのですが、これを心に留めておいていただいて、こんなことは、こんな人たちと一緒にできるなという、思いつきのきっかけになっていただければいいと思っています。

副会長

何物も生まない会議は嫌いなので、何かプロダクトがあってほしいと思いま

す。今日、このままで終わったら、「ちょっとわかったかもしれない」という人と、「いや、やっぱりわからないわ」という人と、ただそれを持ち帰るだけなので、提案ですが、一つは、せっかく作った指針ですので、これの案を消していいかを決めていただければありがたい。これではダメだということであれば、どういうふうに、どんなようなことを盛り込んだり、どういうことを削ったりしたらいいかという意見をいただきたいと思います。そういう議論をして、やはり完成品を作らなければならないのではないかと思います。

だから、今日できなくても、もう一回やってちゃんと決めるという、要するにネクストステップは決めてほしいと思います。

もう一つは、何回も言いますが、今、区長をやっている、昨日豊平区長会だったのですが、資料の中に、昨年の区長さんたちの意見を聞いたアンケートがあったんです。それが、いっぱい意見が書いてあるなって思ったんです。そういうことをどうするんだろう、と思ったら、参考にどうぞ、というだけなんです。せっかくこれだけみんながたくさん意見出しているし、しかも全部ではないというんです。全部見せろ、と。

それこそ情報開示で、昨年1年間苦勞した区長さんたちが何を考えて、どんな意見を出したのかちゃんと見せてほしくて、一応お願いして、持ち帰っていただいたのですが、先ほど声を上げようと思っても、なかなか声が上がってこないという話がありましたが、そうやって声を上げているのを、今度は拾わないというのは、これは罪なのではないか。

去年やったアンケートをきちんと形にして、各区長会に配布するなり、あるいは、市の区長会でパートナーシップをやったらいいのではないですか。この意見を受けて、これからの区政はどうあるべきかということ、現区長さんでもいいし、あるいはかつて区長をやった、ものを言いたいという人に集まってもらってもいいので、広報ちので呼びかけて、やりますから集まってください、と。

市役所としては、自治・協働課が担当して、政策立案しましょうと、やってもらい始めたらいいかなとは思いますが、大きな問題なので、もう少し小さくすると、昨日の区長会の中で議論になったのは、選挙の話。

今度の7月か8月に知事選があるのですが、この前の選挙で一日立会人をやったら、大変で疲れたのですが、あれは区長がやらなければいけないものではなくて、誰がやってもいいはずだから、そもそも区長が立会人をやるという話ではないということをちゃんと認識してもらって、選挙管理委員会と話をすべきではないか、と。

実は、自分の区で区民アンケートを取ったんです。それで、区の役員がやっている仕事の中で、大変だったら代わりにやってもいいよ、というものはないか。例えば、小学校の入学式に招待されたら代理で出るとか、選挙立会人も代わって出るとか、というものを項目に入れたのですが、割と丸がついて、やってもいいよという人がいる。それだったら、具体的に区の仕事を軽減できる方法のヒントがここにあるのではないかと思うので、とりあえず選挙立会人の一点の問題でもいいからやってみる。

それに物申したいという人や、こういうことができるはずだということを知っている人を集めて、選挙管理委員会とで、パートナーシップで、「茅野市では選挙立会人についてはこういうふうにします」というプロダクトを生むという作業をしたら、やり始めることになるのではないですか。そのプロセスで情報開示がされたのかどうか、政策立案の段階から当事者たちが参加したかどうかと

<p>会長</p>	<p>いうことをちゃんとレビューして、次に結びつけるということ。</p> <p>もうやりはじめましょうよ。こういう理念レベルの議論をするのはもういいので、具体的なところで動き出したい。そうでないと、結局は、これを周知するにはどうしたらいいのかが問題だって、問題を指摘するだけで。意見が上がらない、では上がるようにするにはどうしたらいいかということ議論するのが、この推進会議の仕事じゃないですか。</p> <p>それをやらずして、問題だね、難しいね、分からないね、とって散会するのだったら、僕はあまりにも情けないという気がします。そんなつもりで出てこないという方もおられるかもしれないですが、ぜひお願いしたいところです。</p> <p>ありがとうございます。皆さんから一通り、この指針についてご意見をいただきました。本日の成果を出さなければいけないので、皆様方からこの指針でいいかということで、可否を取りたいと思いますが、その前に何かご意見があれば。</p> <p>はい、副市長。</p>
<p>副市長</p>	<p>再構築の指針について皆さんの意見を聞いている中で、やはり区や自治会、コミュニティの再生というものが、この段階の中に入ってこないといけないのではないかと思います。皆さんはやはり、この区や自治会が、コミュニティが残っていけるかどうかということが、話を聞いていてあると思います。</p> <p>はじめにパートナーシップのまちづくりと言ったときに、市民の皆さんが直接参画して、そして汗をかいていくということでスタートしたと思います。先ほど、岩下委員がおっしゃったように、行政との関係だけがまちづくりではない。市民の皆さんによる区や自治会活動、地域の活動というのがまちづくりで、その部分が今、人口減少、超高齢化の中で非常に危なくなっているの、そこを何とかしなければいけないということがあると思いますので、行政との関係のこの再構築というところもいいのですが、それと同時にコミュニティをどうしていくかという部分にも視野がないと、茅野市として残っていかないのではないかと思います。そのあたりを、お聞きいただければと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>そのあたりについて議論すると、予定の時間を大幅に過ぎる可能性がございますので、今日はその投げかけをいただいたという形で、準備委員会で、先ほどの指針をベースにしてこれからやっていってよいかどうかを、まずは皆様方にお諮りさせていただきたいと思います。ただいまご説明をさせていただきました、パートナーシップのまちづくりの再構築指針（案）について、この方向で進めてよいという方は、拍手をお願いします。</p> <p>（承認）</p> <p>ありがとうございます。では、その方向で進めさせていただきたいと思います。加えて、今日皆様方からいただいたご意見、先ほどの副市長からのご意見も加味して、今後準備委員会を進めていっていただければと思っています。よろしくをお願いします。</p>

	<p>(5) その他 本日用意した会議の項目は以上となりますが、その他、言っておきたいことはありませんか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは、事務局へ進行を返します。ありがとうございました。</p>
事務局	<p>7 閉会 副市長から、閉会の言葉をお願いします。</p>
副市長	<p>今日はありがとうございました。様々なご意見をいただきましたが、これをどういうふうに統合していくかということが一番大事だと思います。</p> <p>私は副市長となる前に、コミュニティセンターの所長だったのですが、例えば高齢者が一人でいて、ごみ捨てをどうするかは環境の問題として個別に扱われて、高齢者の介護の問題は福祉の問題として個別に扱われ、災害時どうするかというのは防災の問題として個別に扱われ、それから、高齢者一人の家庭の人がどうやって移動するかというのは、公共交通の問題として別に扱われる、という形で、本当はその地域全体で統合した形で考えていかなければいけないと思います。</p> <p>高齢者についても、子どもについても、様々な問題だと思うのですが、全体を包括するような、ごちゃまぜの関係でなかなか議論ができないということがあったと思います。今日、委員の皆さんから出していただいたのは、実は個別の問題が生活している区や自治会のところ、その生活区域のところみんな乗っかっていて、それを統合的に考えなければいけないということだったのではないかと思います。</p> <p>ですから、結構面倒な議論になるかもしれませんが、次回以降もおつきあいいただき、茅野市が本当にいいまちになるように、ぜひご意見、そして活動をお願いしたいと思っています。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>われわれ事務局を含め、私どもとしても、行政も意見を言っていく、そんな場になっていかなければ、本当のパートナーシップではないと思っています。ぜひ、われわれも参画をしながら、議論を進めていきたいと思っています。</p> <p>本日は、長時間にわたりまして、ありがとうございました。以上で閉会とさせていただきます。</p> <p>閉会 (午後8時55分)</p>